12教授が教壇に別れ

学生の指導に尽力し、研究に情熱を注いでこられた教員12人が今春、定年退職を迎える。

※氏名、主な担当、主な役職、勤続年数

定年退職

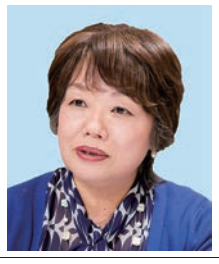
【法学部】

家永登教授
「家族法」今村法律研究室長　20年

坂本武憲教授
「民法」副学長、法学部長　41年

福永礼治教授
「民法総則」16年

【経営学部】
瓶子長幸教授
「企業法と会計情報」経営学部長、会計学研究所長　40年



【商学部】
見目洋子教授
「商品開発」就職指導委員会委員長　23年

竹本達廣教授
「財務管理」41年

【文学部】
伊吹克己教授
「現代思想史」人文科学研究所長　39年

近江吉明教授
「欧米文化史」26年

福島義和教授
「都市環境学」文学部環境地理学科長　39年

藤森研教授
「新聞学」10年

【人間科学部】
川上周三教授
「比較社会論」21年

今野裕昭教授
「地域社会学」人間科学部社会学科長　16年

依願退職

3月31日付

※カッコ内は在職年数

【法学部】
土田亮教授　（6年）
山本直毅助教　（1年）

【商学部】
蔭山雅博教授　（32年）
梅田充助教　（1年）

【人間科学部】
長田洋和教授　（17年）

任期満了

3月31日付

※カッコ内は在職年数

【文学部】
阿部美香助教　（3年）

【大学院商学研究科】
安藤英義教授　（6年）

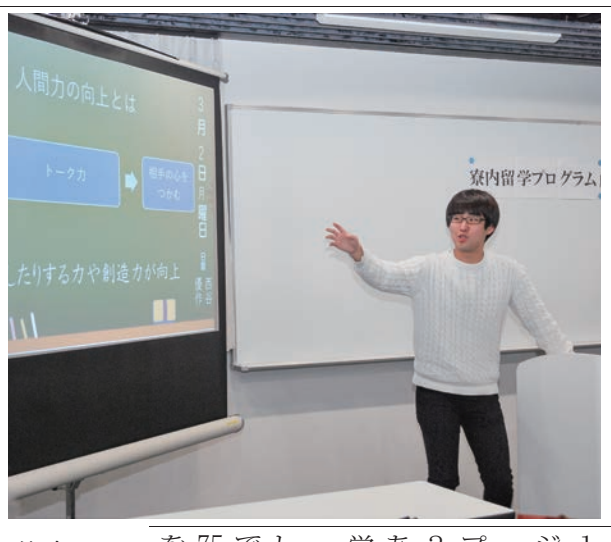
最終講義

伊吹克己文学部教授＝1月11日

近江吉明文学部教授＝2月15日

福島義和文学部教授＝1月17日

寮内留学での学びを発表



生田キャンパス国際交流会館で専大生が留学生とともに生活する「寮内留学」。2014年度後期から始まり、11回目となる19年度後期には、1、2、4年次15人がレジデント・パートナー（RP）として寮内留学プログラムに参加した。3月2日、成果発表会があり、半年間寮内留学で学んだことを発表した。

RPは昨年9月に入寮し、短期留学プログラムで来日した12カ国・地域75人と2人1部屋で生活をともにした。田北みなみさん（商1）は「言葉が通じなくても笑顔を絶やさないことでルームメートと仲良くなれた」と話した。

留学生2人と京都旅行に行った中橋勇進さん（商1）は歴史からバスの運行まで何でも質問され大変だったと振り返った。そのうえで「日本のことを何も知らないと自覚した。英語やコミュニケーション能力も大事だが、自分や自分の国についての理解が重要だ」と語った。

「留学生も日本人もそれぞれ違うということを共同生活で学んだ」と話すのは田木萌子さん（文2）。当初、英語が話せなくて悩んだという細谷皐月さん（商2）は「日本語を教えたくても教えられない。ルームメートと距離が縮まらずストレスだった」として、語学の重要性を実感した。

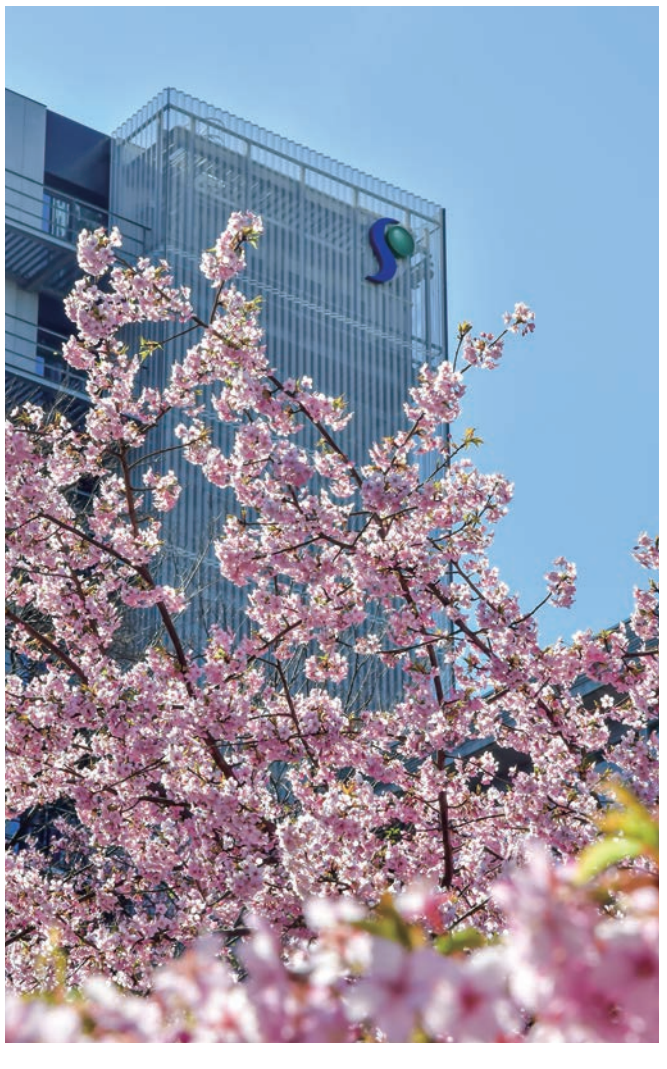
ほかのRPも、異文化交流の難しさや醍醐味、RP同士の協力の重要性、語学力向上の秘けつなどを語った。

国際交流会館は、グローバル人材を育成する教育寮として国際交流協定校からの交換留学生（1年間）や、日本語・日本文化を学ぶプログラムに参加する世界各国からの短期留学生が、専大生とともに生活する。

「人とのつながりが自分を成長させた」と語る西谷優作さん（文2）

令和の春 万葉の園に桜

生田キャンパス



生田キャンパス東側、生田緑地に通じる場所にある万葉植物園で2月下旬、斜面に植えられた河津桜が開花した。3月上旬まで咲き、集まった多くの野鳥が令和初めての春の訪れを喜ぶかのようにさえずっている。

〈今日のためと思ひて標（しる）し　あしひきの峰の上の桜かく咲きにけり　大伴家持〉

万葉植物園は1971年に開園。半世紀近くたった今も、万葉集に詠まれた植物のほか、昭和から平成に育った木々や季節の草花が静かにたたずんでいる。